



CNHR Newsletter

CENTER FOR NATURAL HAZARDS RESEARCH, HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学 広域複合災害研究センター Vol.12 November 2023 – June 2024

■新任者のご挨拶

新しく着任したメンバーからのご挨拶です。

■第二期センター長(4月1日付) 佐々木 貴信 (農学研究院教授)

この4月から前センター長の山田孝名誉教授から引き継ぎ、第二期センター長を拝命いたしました。当センターでは、今年度から文部科学省プロジェクト研究経費が採択となり、寄附金とのハイブリッドで運営され、第二期の活動を開始しています。4月に開催した第二期オープニングセレモニーでは、第二期の広域複合災害研究センターのあるべき姿についてご議論いただき、パネラーの方々から貴重なご意見や期待の言葉をいただきました。皆様のご期待に応えるべく務めてまいりますので今後ともセンター活動へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

■客員教授(4月1日付) 南 哲行 (砂防・地すべり技術センター顧問)

国土交通省で長く防災行政に携わってきました。現在は(一財)砂防・地すべり技術センターで、実践力のある若手中堅技術者の育成に携わっています。本研究センターでは、東日本大震災(3.11)の前線での実体験を生かし、研究のみならず真の防災の専門家を育てられること目標に、行政機関から身近な存在になるための一助に努めます。

■客員教授(4月1日付) 松本 浩司 (NHK解説委員)

記者として30年あまり国内外の多くの災害現場で取材・報道にあたってきました。解説委員になってからも現場取材にこだわりながら防災・減災のための論点整理や提言に努めています。被災地と行政、研究等多面的な取材を通じて見える防災政策の課題や災害報道のあり方についていっしょに考えたいと思っています。よろしくお願いいたします。

■学術研究員(4月1日付) 福井 宏和

斜面災害に関係する地質や粘土鉱物が研究対象です。北海道には、軽石などの火山灰が広く分布し、2018年の胆振東部地震では、そうした斜面で多数の崩壊が発生しました。今後起きうる地震による崩壊危険箇所を未然に推定できるよう、日々研究に励んでまいります。

※下記の先生方は、4月1日付で異動しましたが、当センターの客員教授にも就任しました。

萩原 亨(元北大名誉教授(元工学研究院・(一財)北海道道路管理技術センター顧問))

山口 真司(元広域複合災害研究センター・政策研究大学院大学教授)

当センターでは、北海道各地の防災担当者と広域かつ緊密に連携を図っていきたくと考えております。ご質問やご意見、お困り事など、お気軽にお尋ねください。

北海道大学 広域複合災害研究センター

〒060-8589 北海道札幌市北区北9条西9丁目

Tel: 011-706-3882 Fax: 011-706-4695

ホームページ: <https://www.cnhr.info/>

メールアドレス: cnhr_unei@agr.hokudai.ac.jp

■活動報告

● センター第二期オープンセレモニーを挙行(4月25日)

平成31年4月に設置された当センターは、令和6年3月をもって第一期の活動を終え、4月より第二期の活動を開始しました。この度、第一期の活動報告と第二期の活動方針を発信し、新たな学問分野「広域複合災害減災学」の創出を目指す第二期のあるべき姿の議論を行う第二期オープニングセレモニーを開催しました。セレモニーには行政機関や民間コンサルタントの防災に関わる技術者や大学関係者、報道関係者など北海道内外から約150人の参加者がありました。

2024年度からは、文部科学省プロジェクト研究経費と寄附金のハイブリッドで運営され、社会連携やリカレント教育を強化し、新たな学問分野『広域複合災害減災学』の創出に向けた第二期の活動を開始しました。開所式冒頭では資金総長の開会挨拶に引き続き、北海道開発局の柿崎恒美局長、木村敏康北海道知事職務代理(北海道危機管理監)の挨拶がありました。

セレモニー後半のパネルディスカッションでは、冒頭に釧路市の蝦名大也市長の挨拶があり、その後、NHK解説委員室の松本浩司解説主幹をコーディネーターとして、「新たな防災学を目指してー北海道大学広域複合災害研究センター第二期への期待ー」をテーマに議論が交わされました。

● 大学院講義『国土保全学総論』開講

今年度も、CNHR所属教員のほか、防災や災害対応の実務経験者、国土計画の専門家を招聘して、大学院共通科目「国土保全学総論」を開講しました。7月4日には道庁協力のもと、札幌市内で防災対策に係る現地見学も実施しました。



佐々木新センター長 方針説明



パネルディスカッションでの議論の様子



琴似発寒川での現地見学の様子

■お知らせ

9月14(土)-15日(日)、北海道新聞社主催の「みんなで考えよう防災展」(札幌パークホテル)に特別協力いたします。当日は、北海道の防災に関する話や、災害現場でのロボットによる救助の実演を行う予定です。乞うご期待!!

■メンバー活動報告

氏名	所属・役職	専門	最近の活動内容(研究課題など)
山田 孝	農学研究院・特任教授	砂防学	広域複合災害減災手法(特に、異種ハザードの重なる区域での災害シナリオと減災手法)、土砂・流木災害減災手法、土砂災害自衛工法、火砕流被害想定手法
井上 京	農学研究院・教授	農業土木学	低平地, 特に泥炭地における地盤沈下に関する研究
佐々木貴信	センター長 農学研究院・教授	木質構造	災害発生時の倒流木等の利活用に関する研究
笠井美青	農学研究院・教授	砂防学	山地流域における災害後の地形変化の把握と予測
厚井高志	副センター長 CNHR・准教授	砂防学	火山噴火または地震に伴う大規模土砂生産イベント後の土砂・流木動態に関する研究
桂 真也	農学研究院・助教	砂防学	山地小流域における水文過程および崩壊・地すべり発生予測に関する研究
泉 典洋	工学研究院・教授	河川工学	洪水時における河床変動とそれによる河床粗度の変化や河岸侵食・河道変動のメカニズム
永田晴紀	工学研究院・教授	宇宙推進工学	小型深宇宙探査機用ハイブリッドキックモータの開発(本年度中にプロトタイプモデルの完成を目指しています)
江丸貴紀	工学研究院・准教授	ロボット工学・制御工学	・大規模フィールドの管理を目的とした非均一なUGV・UAV群によるロボスタSLAM ・港湾の維持管理を目的としたGNSSTラッカーの開発
中嶋唯貴	工学研究院・准教授	地震工学・建築情報学	季節変動性を考慮した人的被害評価手法の開発と防災・減災手法の構築
山田朋人	工学研究院・教授	水文学	・気候変動予測手法の開発と洪水リスク評価に関する研究 ・地球水循環システムと極端現象の解明に関する研究
田中 岳	工学研究院・助教	水文学	降雨流出系の確率応答解析に立脚した洪水予測システムの合理的な構築方法に関する研究
石川達也	工学研究院・教授	地盤工学	気候変動に伴う積雪寒冷地の斜面災害形態変化の体系化とそのリスク評価に関する研究
渡部要一	工学研究院・教授	地盤工学	火山灰質土により造成された盛土地盤の液状化特性
橋本雄一	文学研究院・教授	人文地理学	地理空間情報を用いた積雪寒冷地の災害時避難に関する研究
青山 裕	理学研究院・教授	火山学	北海道の活動的火山における火山現象の力学的観測研究
谷岡勇市郎	理学研究院・教授	地震学・津波学	広域津波災害軽減に向けて、近年設置された海底地震津波観測網(S-net)を用いた津波即時予測手法の開発研究を実施し、国際誌EPSIに投稿する。
稲津 将	理学研究院・教授	気象学	数値計算・データ解析による気象力学および応用気象学の研究
高橋幸弘	理学研究院・教授	リモートセンシング・雷観測	超小型衛星を用いた大規模災害の即時的な観測、およびそれを実現する国際連携の構築
方波見謙一	北海道大学病院・助教	救急医学	DMAT全国訓練参加(南海トラフ地震対応)、DMAT北海道訓練参加(千島海溝地震対応)

関係者氏名	役職・所属	専門
丸谷知己	名誉教授(北海道立総合研究機構・理事)	砂防学
萩原 亨	客員教授	交通工学
山口真司	客員教授(政策研究大学院大学・教授)	地域防災・マネジメント学
小山内信智	客員教授(政策研究大学院大学・教授)	砂防学
奥野信宏	客員教授(名古屋都市センター長)	公共経済学
今 日出人	客員教授(株式会社ドーコン)	地域防災学
岡田成幸	客員教授((一財)砂防・地すべり技術センター, アジア航測株式会社)	地震防災計画学(建築系)
室田哲男	客員教授(政策研究大学院大学・教授)	危機管理法政策, 消防・防災・減災政策, 危機管理法制
南 哲行	客員教授((一財)砂防・地すべり技術センター, NPO防災情報研究所)	国土保全学
松本浩司	客員教授(日本放送協会解説委員室解説主幹)	災害報道, メディア論, 地域防災
佐野寿聰	研究員(アジア航測株式会社)	—
村上泰啓	研究員(北海道開発局)	リモートセンシング技術を活用した地被環境の解析
福井宏和	学術研究員	災害地質学, 粘土鉱物学
原田和子	事務	—